

写真で綴る 体育大会！



精一杯走り、精一杯踊り、応援したよ！



《お話集会より》 蜘蛛の糸

ある日のこと、仏様が住んでいる「極楽の蓮の池」の周りを散歩していたお釈迦様は、ふと池の中をご覧になりました。そこには、恐ろしい地獄が広がっていました。地獄で苦しむ人は、みんな生きています。悪いことをしていました。その中にカンダッタという男がいた。生前は大泥棒として悪事の限りを尽くしたカンダッタも、たった一つだけ良いことをしたことをお釈迦様は思いだされました。そして、何とかこのカンダッタを救い出そうと、お釈迦様は蜘蛛の糸を蓮の池から下ろされました。（中略）

遙か上まで登り、カンダッタが一息をついていると、地獄の亡者たちが次々と細い糸を上ってくるではありませんか。糸を振ってなんとか亡者を振り落とそうとしました。しかし、糸は切れません。揺らしても、揺らしても、なおも上ってくる罪人たちに、

「これは俺のものだ、お前達は地獄に落ちろ」 ➤

と叫んだそのとき、驚くことが起こりました。蜘蛛の糸が「ブツリ」と音を立てて切れてしまったのです。カンダッタは、大きな叫び声とともに、くるくる回りながら、元の地獄に落ちていきました。（後略）

さあ、どうでしたか？自分だけ助かるなんて、悲しい心が糸を切ったのかも知れませんね……。あなたは、善い行いをしていますか？そして、友達を大事にしていますか？（終）

“三つ子の魂百までも”ではありませんが、この話が、子供達の心の片隅にでも残り、自分の行動の規範になればと願っています。

学校評価を頂いて！（遅くなりすみません）

◎全体的傾向について（昨年度との比較も含む）
児童・保護者を問わず、ほとんど昨年度と同じ数値となりました。その結果を見て、改めて驚くほどの類似だなあと苦笑いするほどでした。ただ1つ、評価が下がった項目があります。それは、読書に関すること。子どもたちも、その状況を理解しているようです。読書の世界、想像力は無限に広がります。学校でも、読書への誘いへの努力、更に進めていく所存です。

また、文章で綴っていただいた意見についても、全てに目を通して戴きました。時間を割いて綴って戴いたご意見です。職員間で共有し、善処していきたいと意を強くしています。今後とも、ご支援ご協力、宜しく願いいたします。

◎白鳥運動（これからの進展）について
令和元年度から行われていた「ほめほめ活動」の発展を目指している「白鳥運動」。2学期以降、更なる充実、そして発展を目指していきます。

具体的には、言葉や優しい眼差し、頭をなでることや握手を行うことなどを通し、心から褒める称讃（物を与えて褒める賞賛とは異なります）に移行していきたいと考えています。

物（賞状等）を与えての賞賛の割合を減らすということは、一見後退したかのような錯覚に陥ると思いますが、さに非ず。下村湖人先生の「白鳥蘆花に入る」に込められた想いを実現するための移行です。温かい職員の“言の葉”こそ、子どもの純粋な心を満たしていくものと信じています。また、「先生のあの時の言葉が、今でも自分を支えてくれます……。」そんな素敵な関係を築くことが、この運動のGoal像です。

